

施設ドック上部消化管造影検査における外部読影導入による検診精度の検討

当院では、以下の後ろ向き研究を実施しております。この研究は、施設ドック上部消化管造影検査を DOCTOR NET による診断と診療放射線技師の 1 次読影の比較後に介入前後のアウトカム要因を比較する研究であり、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

研究課題名

施設ドック上部消化管造影検査における外部読影導入による検診精度の検討

研究責任者氏名・所属

小田島 拓（帯広厚生病院 放射線技術科）

研究の目的

消化管 X 線診断分野における IT 技術の進捗は、遠隔画像診断を可能にし、今日では読影医不足と相まって拡大する傾向にあります。当院では、院内読影医師不足のため、施設ドック上部消化管造影検査に遠隔読影である DOCTOR NET を導入しました。本研究では、遠隔読影導入前後の要精検率の変動、診療放射線技師の 1 次読影との差、などについて調査し、遠隔読影導入前後の検診精度について検討することを目的としております。

研究の方法

調査項目は対象患者の要精検率、がん発見率、陽性反応的中度の項目とし、施設ドック上部消化管造影検査を DOCTOR NET による診断と診療放射線技師の 1 次読影の比較をし、介入前後のアウトカム要因を比較する。

個人情報の取り扱い

この研究について、研究に利用する研究協力者の個人情報に関しては、お名前、ご住所などを特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は、学会や学術雑誌で発表されますが、その際も研究協力者を特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に情報を利用することをご了承いただけない場合は、以下にご連絡ください。

○[連絡先・相談窓口]

北海道帯広市西 14 条南 10 丁目 1 番地 （電話：0155-65-0101）

帯広厚生病院 放射線技術科 小田島 拓